



ピエゾグラフによる わたしの好きなちひろ展

2021年10月2日(土)～2022年1月16日(日)

会場：展示室3・4

主催：ちひろ美術館 協賛：株式会社ジャクエツ
後援：絵本学会、公益社団法人 全国学校図書館協議会、(一社)日本国際児童図書評議会、
日本児童図書出版協会、(公社)日本図書館協会



1-1. はなぐるま 1967年

—初めてこちらに来たときに感動し、水彩画を始めました。「はなぐるま」の絵を部屋に飾っています。男の子と女の子が描かれていますが、私の心のなかで、私と夫みたいな気持ちで、絵に込められた純粋な心を忘れずにと大切にしております。(YT)



1-2. 雪のなかを走る子ども 1970年

—青紫がとてもきれいで好きです。小さいときに、雪が降るなか、元気いっぱい楽しく遊んだことを思い出しました。(ミナ 学生)

みんなのリクエストでつくる展覧会です

この秋、東京と安曇野、ふたつのちひろ美術館で、みなさんが好きないわさきちひろの絵で構成する展覧会を開催します。本展のために、ちひろの絵のリクエストを募り、その絵にまつわるメッセージをお寄せいただきました。大切な人との時間を思い出したり、やわらかな色彩に心を寄せたり——ちひろの絵に寄せられたことばかりは、ひとりひとりの人生や思いが見えてきます。本展では、みなさんのメッセージとともに、ちひろの作品をピエゾグラフ*で紹介します。みなさんの大切な思いが集まってできた展覧会をお楽しみください。

わたしの好きなちひろ展 特設サイト

<https://myfavorite.chihiro.jp/>

寄せられたメッセージもご覧いただけます。

*ピエゾグラフとは

ちひろ美術館では、2004年以降、その時点での作品の風合いを後世に伝えていくため、原画をデジタル情報として記録し、保存していくアーカイブを続けています。同時に、そのデジタル情報をもとにして、「ピエゾグラフ」の制作を進めています。ピエゾグラフは、耐光性のある微小インクドットによる精巧な画像表現で、ちひろの繊細な水彩表現を高度に再現しています。

ピエゾグラフについて、動画でも紹介しています。

<https://myfavorite.chihiro.jp/about/>



1-3. 赤い毛糸帽の女の子
『ゆきのひのたんじょうび』
(至光社)より 1972年

—雪の降るとっても寒い日のはずなのに、このきれいなオレンジ色によって、とってもあたたかそうに、しあわせそうに見え、やさしく笑う表情がとても好きです。(YN)

同時開催の展覧会基本情報

展覧会名 ピエゾグラフによる わたしの好きなちひろ展
ちひろの歩み 一童画から絵本へ

会期 2021年10月2日(土)～2022年1月16日(日)

※会期は予告なく変更になる場合があります。

○開館時間＝10:00～16:00(最終入館は15:30まで)

○休館日＝月曜日(祝休日の場合は開館、翌平日休館)

料金

大人1000円／高校生以下無料

団体(有料入館者10名以上)、65歳以上、学生の方は800円／障害者手帳ご提示の方とその介添えの方1名は無料／年間パスポート3000円

展覧会の見どころ

参加型の展覧会です

リクエスト募集を3月から始め、現在（7月末）までに2000通を超える応募をいただいています。本展は、リクエストをいただいた作品で構成します。会期中も引き続きメッセージを募集し、届いたメッセージは展覧会会場のほか、特設サイトやSNSでも紹介します。

みなさんのメッセージからちひろの絵の見方が広がります

寄せられたメッセージの一部を紹介しています。

—マイペースな長男、しっかりものの長女、産まれたばかりの次男。3人の育児に追われる毎日を送っていたときに出会った一枚です。自分も甘えたいのに、あかちゃんの面倒をいつも見てくれていたお姉ちゃんを『いっぱい抱っこしてあげよう』と思いました。（みっちゃん 主婦）



1-4. お姉さんとあかちゃん 1971年

—やさしい風と光に包まれて未来を見つめる女の子。心のなかにはちょっぴり不安もあり、これからどうなっていくのか……それでも振り返った彼女の瞳のなかには希望が満ちている。（Sakamit 主婦）



1-5. 緑の風のなかで 1973年



1-6. おつむてんてん 1971年

—あかちゃんのおててが、頭のてっぺんまで届かないところがかわい。（まさかの母）



1-7. ぶどうを持つ少女 1973年

—この絵との最初の出会いは高校生のとき。世界史の先生が着ていたトレーナーにこの絵がプリントされていたのです。白い背景がうまく使われていて余計なものがまったくない、優れたデザインだなあと眺めていたのを覚えています。20年経った今でも大事に玄関に飾ってあります。（チョコレートコスモス）

安曇野と東京で同時開催

この展覧会は、より多くのリクエストにお応えできるよう、東京と安曇野、ふたつのちひろ美術館で同時開催します。リクエスト上位の作品は各館共通で、そのほかは各館異なる内容で展示します。

- ちひろ美術館・東京 2021年10月2日（土）～2022年1月16日（日）
- 安曇野ちひろ美術館 2021年9月11日（土）～11月30日（火）

出展作品数

約50点

図版について

本リリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。ご希望の方は、別紙「広報用作品画像データ貸出依頼書 兼 借用誓約書」をご覧ください。

- ※必ず絵のそばに作家名・作品タイトル・制作年を明記してください。
- ※トリミングや文字が絵にかかるようなレイアウトはご遠慮ください。
- ※データ等チェックのため、校正段階で原稿をお送りください。
- ※掲載紙/誌をご送付ください。



ちひろの歩み —童画から絵本へ—

2021年10月2日(土)～2022年1月16日(日)

会場：展示室1・2

主催：ちひろ美術館 協賛：株式会社ジャクエツ



2-1. 顔を洗う男の子 『ひとりのできるよ』(福音館書店)より 1956年

全館でちひろの絵を展示！ ちひろの絵の背景も紹介します

いわさきちひろは、第二次世界大戦後の1940年代後半から、児童雑誌や童話集、紙芝居などに絵を描くようになり、次第に子ども本の画家として注目されるようになりました。当時子ども向けの絵は「童画」と呼ばれ、ちひろも自然と「童画家」と呼ばれるようになったといいます。

ちひろが最初の絵本『ひとりのできるよ』を描いた1950年代後半から、日本でも一冊の絵本をひとりの画家が描く「絵本」が、画家たちの新たな表現の舞台として注目されるようになりました。日本の絵本が隆盛期を迎えた1960年代半ばからは、ちひろの仕事の中心も絵本へと移り、絵本でしかできないことを求めて晩年まで挑戦を続けました。

「わたしの好きなちひろ展」と同時開催となる本展では、童画から絵本への子ども本の大きな転換期に、日本の絵本に新たな道を開いたちひろの画業をたどります。



2-2. くちもとに指をそえた少女
『あめのひのおるすばん』(至光社)より 1968年



2-3. 雪の女王とカイ
紙芝居「雪の女王」(童心社)より 1953年

展覧会の見どころ

初期から晩年まで ちひろの画業の変遷をたどる

新聞記者をしながら絵の勉強をしていたころに描いた童話集や、画家として立つきっかけとなった紙芝居、「よいこのくに」や「キンダーブック」などの絵雑誌、代表的な絵本の原画などを年代を追って紹介し、初期から晩年までのちひろの画業の変遷をたどります。

「童画家」としてのちひろに注目

子ども時代に絵雑誌「コドモノクニ」を目にして育ったちひろは、武井武雄や初山滋の描く童画に憧れて育ちました。1947年に入会した日本童画会で武井や初山に出会い、童画家として高い評価を受けたことは、駆け出しのころのちひろにとって励みとなったことでしょう。今は聞きなれないことばとなった「童画家」としてのちひろを、作品や資料で紹介します。

ちひろの絵本づくりへの挑戦

ほかの作家が書いた物語に絵を描くだけではなく、自分でことばも手がけるなど、ちひろは絵本づくりへの挑戦を続けました。「感じる絵本」といわれる『あめのひのおるすばん』、ベトナム戦争への反戦の思いを込めた『戦火のなかの子どもたち』などの独自の絵本づくりを紹介します。

展覧作品数

約80点

主な展覧作品

紙芝居「雪の女王」(童心社) 1953年／『ひとりのできるよ』(福音館書店) 1956年／『あいうえおのほん』(童心社) 1960年／『あめのひのおるすばん』(至光社) 1968年／『戦火のなかの子どもたち』(岩崎書店) 1972年 ほか



紙芝居「お母さんの話」(童心社) 1950年

『ひとりのできるよ』
月刊絵本「こどものとも」1957年3月号
(福音館書店)絵雑誌「ひかりのくに」1955年7月号
(ひかりのくに昭和出版)

図版について

本リリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。

ご希望の方は、別紙「広報用作品画像データ貸出依頼書 兼 借用誓約書」をご覧ください。

※必ず絵のそばに作家名・作品タイトル・制作年を明記してください。

※トリミングや文字が絵にかかるようなレイアウトはご遠慮ください。

※データ等チェックのため、校正段階で原稿をお送りください。

※掲載紙/誌をご送付ください。



2-4. 「ちら ちら こゆき」 1958年

2-5. 「あいうえおのほん」
(童心社)より 1960年2-6. たたずむ少年「戦火のなかの子どもたち」
(岩崎書店)より 1972年

わたしの好きなちひろ展 関連イベント

ちひろ美術館 東京・安曇野をつなぐオンライン鑑賞会

10月16日(土) 17:00～

参加費：無料 定員：50名

申し込み：要事前予約(ちひろ美術館公式サイトにて)

ちひろ美術館・東京と安曇野ちひろ美術館をつなぐオンライン鑑賞会です。両館で同時開催中の「わたしの好きなちひろ展」の見どころを紹介します。

●そのほかのイベント

敬老の日

9月20日(月・祝)

この日、65歳以上の方は入館無料となります。※受付にてお申し出ください。

わらべうたあそび(オンライン開催)

10月30日(土) 文化庁 令和3年度地域と共働した博物館創造活動支援事業

講師：服部雅子(西東京市もぐらの会代表・はとさん文庫主宰)

対象：10:30～11:00 0～1歳6ヵ月児と保護者 / 11:30～12:00 1歳7ヵ月～2歳11ヵ月児と保護者

参加費：無料 定員：各回5組

申し込み：要事前予約(ちひろ美術館公式サイトにて9月30日より受付開始)

リズムにあわせて体を動かしたり、声を出して歌ったり。物語への入り口となる「わらべうた」を親子で楽しみましょう。オンライン会議システムZoomを使用しますので、ご自宅などからご参加ください。

あかちゃん・子どものための鑑賞会(オンライン開催)

12月12日(日) 文化庁 令和3年度地域と共働した博物館創造活動支援事業

講師：富田めぐみ(NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表)

対象：10:30～11:30 あかちゃん(0～2歳と保護者) / 13:30～15:00 子ども(3歳～小学生と保護者)

参加費：無料 定員：各回8組

申し込み：要事前予約(ちひろ美術館公式サイトにて11月12日より受付開始)

あかちゃん・子どものための鑑賞会を数多く手がけてきた講師が、親子で作品を鑑賞するヒントなどをお話します。オンライン会議システムZoomを使用しますので、ご自宅などからご参加ください。

ちひろの誕生日

12月15日(水)

いわさきちひろは1918年12月15日に生まれました。この日ご来館のみなさまには、ちひろのこぼれカードを差し上げます。



秋の花と子どもたち 1965年



ピンクのうさぎとあかちゃん 1971年

わたしの好きなちひろ展 関連展示

ピエツグラフによる わたしの好きなちひろ展

2021年9月10日(金)～11月23日(火・祝)

会場：「ちひろの生まれた家」記念館 〒915-0068 福井県越前市天王町4-14 TEL.0778-66-7112

開館時間：10:00～16:00 休館日：火曜日(祝日の場合は翌日) 入館料：一般300円/高校生以下無料

ちひろ美術館(東京・安曇野)と同時に「ちひろの生まれた家」記念館でも本展を開催します。ぜひご来場ください。

新刊のご案内

『ちひろダイアリー』

河出書房新社 発行 竹迫祐子・ちひろ美術館 編著

A5版 144ページ 2021年7月27日刊行 定価2,145円(本体1,950円)

いわさきちひろの絵に息づく懐かしく幸せな光景。絵のなかで子どもたちは真つすぐに前を見つめ、

未来への希望に満ちています。生涯に描いた1万点の絵画から厳選。



※リリースに掲載している展覧会・イベントは、予告なく変更になる可能性があります。最新情報は公式サイトをご覧ください。最新情報は公式サイトをご覧ください。お電話・メールにてお問い合わせください。みなさまのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。